

西藤島小だより



☆学校教育目標『自主と創意に満ちた人間性豊かな児童の育成』
☆目指す児童像「学ぶ子」「やさしい子」「強い子」
福井市三郎丸1丁目1410 TEL (0776) 22-8820 FAX (0776) 22-6809
<http://www.fukui-city.ed.jp/ni-fuji-e/> E-mail: ni-fu-e@fukui-city.ed.jp

平成29年9月1日発行
No.4
福井市西藤島小学校

楽しくすごそう！～授業再開～

今年の夏、雨が多かったものの例年のように暑い夏でした。8月29日、授業再開日も登校時にはすでに28度を軽く超えています。9月を迎えたとはいえ、この暑い中、毎日汗をダラダラ流しながら子どもたちは登校してきます。中には50分もかけて、歩いて登校してくる子どもたちもいます。学校につく頃には、髪の毛は汗でグッショリ、水筒のお茶もほぼ飲み干しています。



朝、集団登校中の子どもたちに出くわすと、「校長先生、暑いです！」と訴えてきます。それでも、毎日登校してくる子どもたち。迎える学校が「楽しい」ところでなかったら、子どもたちに申し訳ないです。もちろん登校や下校も大切な安全の学習ですが、苦労ばかりを子どもたちに与えてはいけなかつくづく思います。遠い遠い学校でも、汗をぐっしょりかいても、でも学校に行きたい！そんな楽しい毎日を過ごせる学校を目指します。



命を救う ～BLS教育～

7月13日（木）に日赤の荒家先生をお招きして、5年生を対象にBLS教育を行いました。BLS教育とは心肺蘇生法やAEDの使用を含む一次救命の基礎知識とスキルを教えることです。

もし、心肺停止の人を見ても何もせず、救急車が到着するのを待つだけの状態だったら、1ヶ月後の生存率は9.2%ですが、心肺蘇生を行うと16.1%に

上がり、さらにAEDを使用することで54.0%に跳ね上がるということです。いかに心肺蘇生が大切か、そしてAEDを使用することが大切かということが、その数字からも分かります。

問題は、その現場に遭遇したとき、適切な心肺蘇生やAED使用などの適切な処置行動がとれるかどうかです。アンケートでは適切な処置行動をとれる自信が「ない」と答える人が約半数います。その理由として「とっさに思い出せない」「あまり関わりたくない」「行動すると自分に責任がかかる」などがあげられるそうです。

人の命を一番に考えることを教えることは学校教育に課せられた責務と考えます。BLS教育もその一環です。一人でも多くの子供たちが、人命救助のための適切な処置を積極的にとれる人に育ってほしいと願っています。

目標に挑戦！

今年も、この季節がやってきました。9月は連合体育大会、そして校内体育大会で全校中が動き出します。動きのない溜まっている水は、次第に澱んでいきます。でも、流れている水は、その流れが速ければ速いほど、清く澄んでいます。学校も同じことがいえるのでしょうか。夏休みも明け、子どもたちが帰ってきた学校は、川の水のように流れだし、本来の学校の活気を取り戻しました。

速い水の流れは石を動かし、石同士がこすれ合います。同じように動き出した学校では、時には子どもたち同士が衝突します。でも適度な衝突は、子どもたちの成長には欠かせません。9月の連体や体育大会は高学年を中心に、全校が動き、走り、競います。自分に与えられた目標や課題に一生懸命立ち向かうこと、特に9月はそんな月にしたいです。



フリートークコーナー ～フプレゼント～



夏休み明け2日目の朝。校長室の扉を「コン、コン」と小さくノックする音が聞こえました。「どうぞ!」と声をかけると、遠慮がちに扉が開き、6年生の女子が3人、中に入ってきました。その中の1人が、手に赤いリボンを巻いた何かを持っています。机に座っている私の前に立った3人は、お互いに顔を見合わせ、小さく合図をした後、声をそろえて言いました。「これを使ってください。」手渡されたものが何か分からなかった私は、愚かにも感謝の言葉をかける前に「これ、なあに?」と聞いてしまいました。「ランチョンマットです。」つまり食事をするときのテーブルに敷く敷物です。広げてみると、給食のお盆を乗せても、まだ余りがあるくらい大きな敷物でした。「私たちの他に、AさんとBさんも手伝ってくれました。」聞くところによると、この5人の6年生は、夏休みにかけて、本校の全職員にそれぞれのイニシャルを付けたランチョンマットを作ったのだそうです。凄い!そして感謝!でした。



思えば、プレゼント(贈り物)って大人になればなるほど難しいものです。相手に喜ばれるものは何か?金額的にどのくらいがいいか?かえって気を遣わせてしまわないか?・・・など、考え出したらきりがありません。(あくまで私の個人的な見解ですが・・・)でも、子どもって凄いです。そんな大人の変な気遣いなしに、心から純粋に、「これを使ってください!」って言えるのです。そしてまた純粋だからこそ、もらった方も素直に嬉しいのだと思います。また一つ、子どもたちに教えられました。